

# <標準出力>の設定が実際の広告印刷で実証！

## カメラ年鑑（日本カメラ）広告の場合のRGBデータ入稿とモノクロ印刷結果

### ▼ 元原稿

こだわりの 画像色再現・オフ校正にも

**<標準出力>法 登場！**

プリントと校正の悩み、不満、ストレスを一挙解消。経費節減してエコ。

新発売！

**RW プリンター 標準出力 調整ガイド <RW CCG-55>**

デジタル時代の色モノサシ：彩度調整ができる デジタルデータ付きグレイスケール。

(特許:第 3855176 号 特願:2008-58667)

- 用途1：Ink Jet プリンターのドライバー補正で印刷データが所定の正しい Lab 値近似に<標準出力>可能な用紙別調整値を検出。
- 用途2：出稿デジタルデータが各印刷所で適正印刷可能な基本画像調整値を検出。

● 内容

① ② <1-2> Bri & Con チャート

標準 15 段階グレイスケール

標準彩度段階スケール (・段階幅：10mm)

● 構成

①：Jpeg プロファイル別各種 TEST チャート画像 10 種入り CD-R・・・1

②：判定用ガイド・・・1 <2-1> 色補正ガイド

● 価格

全 28 基準段階の分光測色 (L\*a\*b\*値) 表添付

・平均測定値表付き 4,800 円 (税、送料別)

・実測値表付き 8,600 円 ( 〃 )

デジタル出力革命！ Mac Win OS、不問。

● Ink Jet ではプリンタードライバーの手動<詳細設定>で、また● オフセット印刷の校正でも、まず①デジタル TEST チャート<1-2>更に<2-1>を刷り出し判定用ガイド②\*をあてがえば、デジタルデータが所定の標準 L\*a\*b\*値近似に出力可能な彩度を含む用紙ごとの<標準出力>調整値が容易確実に判り、試行錯誤なし、ほぼ一発で眼からウロコ。これまで至難、明るさ、コントラスト、彩度、グレイバランスも美しい究極の色再現が可能。インク・用紙・経費を節減しながら、標準画像の、夢の<無校正印刷>が史上はじめて実現！

●その判定用ガイド②は Ink Jet でここまで厳密に色再現調整が可能であるという驚異的模範印刷を示すその証拠物件です。

\* 基準デジタルデータを EPSON 写真用紙に EPSON PX-G5300/顔料つよインクにより所定の L\*a\*b\*近似値に厳密調整し印

・下記ホームページでご確認のうえご注文下さい。

**RW 協色彩写真研究所**

〒185-0013

東京都国分寺市西窓ヶ窪1-12-2

TEL/FAX 042-323-5710

http://www.mmjp.or.jp/rwicp

### 入稿データ

- ・ Quarkxpress 8.12 (大日本印刷)
- ・ Photoshop CS
- ・ Apple RGB
- ・ グレイスケール変換は印刷所による。
- ・ 原稿内容は月刊用とも同じ。
- ・ CCG-55 の表面デジタルデータは L52。したがって濃度7近似が理想。カタログ表 3 参照。

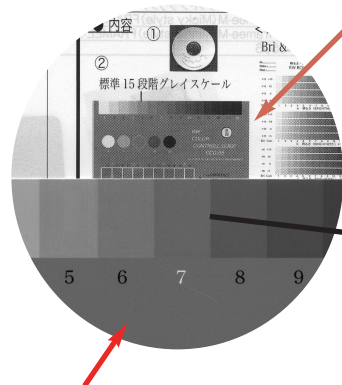
### ↓ 入稿時の濃度指定

下の○範囲 (L52 部分) が、グレイスケールの 7 番を基準とし、プラスマイナス濃度 1 の範囲 (6~8) 内に収まり、かつ○各段階濃度が分離するよう印刷して下さい。



### 実際の印刷結果 写真 A

09年11月30日  
協色彩写真研究所



ガイドのスケール部分

### ◀ カメラ年鑑 2010

p.371 掲載/印刷：大日本印刷

● 仕上がり濃度：7番とほぼ同一

・ここでは標準データ (L52) からの理想の標準出力(濃度 0.7)が達成されている。

### B&W (黒白)

### 画像印刷の場合

### デジタル出力革命！

B&W画像印刷の場合、元データがRGBの場合は一般には入稿データをユーザー側のPhotoshopでグレイスケール変換するよう指示されることが多いようですが、しかし、Photoshopの設定が印刷所と異なる場合はそこに変換値の相違が生じるので、上記したように、今回の広告原稿入稿では、画像はRGB (Apple) のまま入稿し、CG-55表面の濃度がL52=7番 (反射濃度0.7) なので、できるだけ指定部分が7番になるよう印刷するよう依頼。

その結果は、カメラ年鑑 (大日本印刷) p.371では、写真Aのようにスケール CCG-55をあてがって判定すれば0.7、つまり7番とどんぴしゃり。標準入稿で標準出力が実現していることが確認できます。

CCG-55の本来の使い方としては、広告文記載どおり、まず<1-2>更に<2-1>を刷り出して標準出力調整をおこないますが、このように<校正時にグレイカード代わりにL52で<CCG-55>を含めて判定し、本刷りで消す>、また<2-1>画像を原稿に含めて濃度とコントラストを指示するという使い方が可能になります。